

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2022.7. VOL.48

contents

極 社会貢献
Social contribution

人 時の人
People in the news

技 研究
Current topics in research

和 お知らせ
Information

学長着任のご挨拶

名古屋市立大学では、令和4(2022)年度から、理事長とは別に学長を設置することとなり、このたび、4月1日より副理事長・学長を拝命しました浅井清文と申します。学長は、大学における教学(教育、研究、社会貢献など)を主に担当します。郡理事長、丹羽副理事長のご指導の下、もとより微力ではありますが、本学の発展のため全力を尽くしてまいりたい所存です。

本学では、2014年に本学の基本理念や行動指針となる「大学憲章」を制定するとともに、「名市大未来プラン」において4つのビジョンを掲げ改革を進めてきました。2021年2月には本学が今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示した「名市大未来プラン2021」を、2022年1月には「研究科等未来プラン2021」を策定し、新たな目標に向け前進しています。

医学部・医学研究科においては、2021年4月に名古屋市立東部医療センター・西部医療センターを大学附属病院化したのに続き、2023年4月には、名古屋市立緑市民病院、名古屋市厚生院附属病院の大学附属病院化が予定されており、5附属病院2200床からなる国公立大学最大級の大学病院群が誕生します。また、桜山(川澄)キャンパスでは、救急・災害医療センター(仮称)の建設が始まっており、附属病院を中心に大きな変革の真っ只中にいます。しかしながら、このような時だからこそ、浮かれること無く足下を見つめ直し、教育・研究・診療・社会貢献に真摯に取り組んでいくことが重要であると思います。

加えて、本年度は、2024年度から始まる法人としての第4期中期計画の策定準備に入る予定となっており、未来プランを実現化するために重要な時期となります。活発なご議論・ご意見をいただきますようお願い申し上げます。

基本理念と長期ビジョンの下にたゆまぬ改革を実行し、本学の教育と研究を発展させていくことが、次世代を担う有為な人材を育てることにつながると信じています。これからもご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



“瑞医の由来”

『瑞医(ずいい)』という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

東部医療センター・西部医療センターのデザイン救急車をお披露目しました!

東部医療センター及び西部医療センターが所有する救急車のラッピングデザインがこのたび完成し、報道関係者の前でお披露目されテレビや新聞などに取り上げられました。

救急車のラッピングは、昨年、両医療センターが名古屋市立大学の附属病院となったことをきっかけに芸術工学部・鈴木賢一教授の研究室ヘデザインをお願いして実現しました。

研究室の学生さんたちが、「地域に愛される」をコンセプトに救急車としての緊急性と信頼感や愛らしさを表現するため、手探りでデザインの検討を行い、半年がかりで完成させました。

完成したデザインは、東部医療センターは同じ千種区内の動物園の人気者、レッサーパンダと東部のロゴマークを用いた蝶を組合せ、周産期医療に力を入れる西部医療センターはカンガルーケアからの発想でカンガルーとヘルスケアアートに用いた三角形を組合せ、どちらもかわいく愛着の持てる救急車となりました。

街中でレッサーパンダやカンガルーの救急車を見かけたら、あたたかく見守ってください。



両医療センターの救急車とお披露目会の様子

文責：東部医療センター経営課・西部医療センター経営課

東部医療センターに先進がん治療センター、血液浄化療法センター、摂食嚥下センターが開設されました。

東部医療センターでは患者さんにより良い医療を提供できる体制を整えるべく、2022年4月より3つのセンター（先進がん治療センター、血液浄化療法センター、摂食嚥下センター）を開設しました。

◆ 先進がん治療センター

東部医療センターでは、一般診療としてがん診療は各診療科において手術、化学療法、放射線治療が行われています。また、低侵襲手術としては、従来の腹腔鏡に加え2021年8月にダビンチ・システムが導入され、悪性腫瘍手術が開始されました。「先進がん治療センター」は今後、各部門を統括する組織として、より良いがん治療の提供に取り組み、がん拠点病院の指定を目指していきます。

◆ 血液浄化療法センター

「血液浄化療法センター」は、より充実した透析治療の提供を目的として開設されました。センターとしての機能を持つことで、透析治療などの血液浄化を受けられる方からのご希望、ご意見を病院に対し、伝えやすくなります。当センターは透析患者の方の代弁者としての役割を果たし、透析患者の方がセンターを活用することでより安心して治療を受けいただけるよう取り組んでいきます。

◆ 摂食嚥下センター

摂食嚥下障害は生活の質の低下、栄養障害、誤嚥性肺炎等を引き起こし、臨床上非常に重要な障害です。また、本邦では摂食嚥下障害患者が急速に増加しています。こうした状況を踏まえ、東部医療センターでは「摂食嚥下センター」を開設することとなりました。当センターは耳鼻咽喉科、歯科、リハビリテーション科、脳神経内科、脳神経外科、内分泌・糖尿病内科の医師、摂食嚥下障害認定看護師、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士など多職種のスタッフで構成されますが、多科・多職種のチームで緊密な連携をとり、摂食嚥下障害に対してより高度な治療を提供していきます。

文責：東部医療センター経営課

01 社会貢献 Social contribution

「苦しまないがん治療」の実現を目指して

～名古屋陽子線治療センター 10年目のあゆみと展望～（西部医療センター）

名古屋陽子線治療センターは、「苦しまないがん治療」の実現を目指したプロジェクトとして2013年2月に全国で8番目の陽子線治療施設として治療を開始し今年で10年目となり、これまでのべ4500名以上の方の治療を行ってきました。開院から3年間は治療費が自費でそれ以外の診療が保険適用される先進医療のみでの診療でしたが、2016年に小児腫瘍、2018年に前立腺癌、骨軟部腫瘍、一部の頭頸部腫瘍、2022年には4センチメートル以上の肝細胞癌、肝内胆管癌、局所進行性膵癌、大腸癌術後再発（いずれも手術不能のものに限る）に対する健康保険の適用拡大がなされました。これらは全国の粒子線治療施設が統一の治療内容を行い、さらには全症例を登録することで治療成績を明らかにし、従来の治療法と比較しての優越性が示されたことをうけてのもので、当センターもデータ解析などに積極的にかかわってきた事業の成果です。

保険適用の拡大とともに患者数は増加傾向が続いており、この2年間は全国の陽子線治療施設の中で最多の治療患者数を誇り、今年度はさらに急増しているため現在関係各所との調整を行いながらできる限り多くの陽子線治療を希望される方の診療を受け入れられる体制作りを行っています。日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の多施設共同臨床試験や院内各診療科との共同臨床研究、さらには他大学やメーカーとの共同開発研究なども行っており、今後できる限り多くの方々への治療提供のためのさらなる適用拡大を目指すとともに、次世代のがん治療の開発をめざした情報発信を継続できるようにしていきたいと思っています。

文責：名古屋陽子線治療センター長 荻野 浩幸



救急・災害医療センター（仮称）建設に向けて（名市大病院）

救急・災害医療センター（仮称）につきましては、高齢化の進展に伴う救急搬送件数の増加への対応、南海トラフ巨大地震等の発生時に津波の影響を受けない最前線の災害拠点病院として、さらに救急科専門医の育成・輩出を目的に、昨年度まで実施設計を行ってまいりました。

具体的な施設概要としましては、名市大病院の平面駐車場であった位置に建設を予定し、地下1階地上8階建て、鉄骨造、免震構造となっており、地下では地下鉄及び既設棟と接続、地上では5階まで既設棟と接続し、屋上にはヘリコプターの緊急離着陸場を設置する計画となっております。また、1階には災害時に災害対応フロアに転換できるような会議室や多目的ホールなどを配置し、2階に救命救急センターを配置して救急車用のスロープで接続することにより、棟の中で最大の面積となる計画となっております。

これまで関係する皆様のご協力のもと実施設計を行ってまいりましたが、いよいよ今年夏頃に工事着手を予定しております。また、開棟は令和7年度内を予定しております。

今後は名古屋市の救急医療体制の一翼を担う施設となるよう工事を進めてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

文責：病院管理部管理課主幹（救急・災害医療機能強化） 松井 健人



退職者紹介

腫瘍・免疫外科学 中西 良一 名誉教授

この度、令和4年3月末日で病態外科学講座腫瘍・免疫外科学分野教授を定年退官し、4月1日付で蒲郡市立ソフィア看護専門学校校長ならびに蒲郡市民病院外科統括部長を拝命致しました。ここに謹んでご挨拶申し上げます。

私にとりましては、一度しか訪れたことがない蒲郡というところで生活の拠点を築くことにはかなりの不安がありましたが、城先生をはじめとする多くの名古屋市立大学出身者のおかげで、何とかソフトランディングできたように思います。

今後は、ソフィア看護専門学校の改革と、市民病院における外科の成績を改善し、新たに呼吸器外科を開設して地域に根付かせていくことが、私の使命と考えております。

今後とも、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



中西 良一 名誉教授

退職者紹介

臨床薬剤学 木村 和哲 名誉教授

元薬剤部長の木村でございます。

在任中は皆様の温かいご厚情とご指導を頂き、心より感謝申し上げます。定年退官後、今年4月より学長補佐(薬品調達) / 特任教授として大学に残ることとなりました。これからの私のミッションは、東部・西部医療センターの大学病院化に伴う3つの病院 (1800床) の薬品調達をサポートすることです。これまでは、各病院が単独で動いていましたが、これからは薬事情報を共有し、共同購入によるスケールメリットを生かしながら後発品・バイオシミラー医薬品の積極的な導入を目指します。また、薬効群ごとのフォーミュラリーを作成し、適正な薬物療法、医療安全に貢献したいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



木村 和哲 名誉教授

新任教授紹介

臨床薬剤学 日比 陽子 教授

2022年4月1日付で臨床薬剤学分野教授を拝命いたしました日比陽子です。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1992年に名市大薬学部を卒業し、同大学院で1997年に博士(薬学)を取得しました。その後、名市大教員、ポストドクター、薬剤師と転々としながら基礎研究者から医療従事者へと舵を切り薬剤師業務や薬学生臨床教育に取り組んできました。2018年に名市大に戻ってからは、名市大を離れていた間に積んだ経験と人脈を活かして市大附属病院群の協働と教育に努めてきました。

この30年あまりで病院薬剤師が担う業務は大きく変化しました。かつての対物業務から、入院患者と向き合う対人業務とチーム医療での活躍へと役割の重点が移っています。そのために薬剤部内でタスクシフトが行われ、薬剤の取り揃え等はSPDが、抗がん剤の調製はロボットが助けてくれるようになりました。薬剤師の役割は、薬の化学的性質や薬が作用する仕組みなどの専門知識を駆使して、患者の薬物治療が適切に行われ治療の目標に向かうように努めることです。そのために必要に応じて処方提案し、また患者には薬の説明や副作用発現の確認などを通して安心して治療に向かえるようにサポートします。さらに、医学的疑問を見つけた時には医師と共に研究をおこない医療の進歩に努めるのも大切な仕事です。こうしたことに、スタッフが誇りとやりがいを持って生き生きと取り組めるような職場づくりをしていきます。どうぞよろしく願い申し上げます。



日比 陽子 教授

02 時の人 People in the news

新任教授紹介

放射線医学 樋渡 昭雄 教授

この度2022年2月1日付けで名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線医学分野 教授を拝命致しました樋渡昭雄(ひわたし あきお)と申します。謹んでご挨拶申し上げます。

私は1997年に九州大学を卒業し、同放射線科に入局し、大学附属及び関連病院で画像診断、血管造影・画像下治療(Interventional radiology: IVR)を中心に研鑽を積みました。2001年には米国ロチェスター大学放射線科神経放射線部門で臨床研究を開始しました。また、学生の頃よりUnited States Medical Licensing Examination (USMLE)に合格していた経緯もあり、留学中に同Step 3合格後、2004年よりfellowとして2年間の臨床研修も行いました。2006年に九州大学帰学後も神経放射線領域を中心に臨床、教育、研究を行いました。

当科は放射線治療、診断・IVR両科とも広範囲をカバーしており、若く、やる気のある優秀なスタッフに恵まれております。2021年度より東部及び西部医療センターが大学病院化したこともあり、放射線治療では従来のX線に加え、陽子線治療も行い、優れた臨床、研究実績を上げています。また、最新鋭の機器を備えた画像診断、大動脈ステントを含めたIVRも担当しております。今後は大学病院にふさわしい先端的な医療、研究を行いながら人材育成に努めたいと存じます。皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



樋渡 昭雄 教授

新任教授紹介

医療・医療教育学 高桑 修 教授

医療教育学 教授を拝命致しました高桑 修です。謹んでご挨拶申し上げます。

平成11年に名市大を卒業後、旭労災病院、春日井市民病院などで内科医・呼吸器内科医として勤務。学位取得後は名市大病院、西部医療センターでお世話になりました。

臨床では、肺癌や肺炎などの診療の中で、緩和医療やナラティブ、全人的な医療、といった分野に関心がありました。またここ数年はCOVID-19への対応でチーム医療やプロフェッショナリズムへの思いを新たにしました。

近年の医学教育ではチーム医療やコミュニケーションといった臨床現場で求められる資質や能力を育み伸ばすことが重要とされています。臨床経験を活かし、患者さんに真摯に向き合いチームで協力できる医師・医療者の育成に貢献できればと思っています。

本学の医学部カリキュラムは多くの方々のご尽力により2020年に医学教育分野別評価の認証を得ていますが、今後も改善を続けなければなりません。複数の附属病院を有する教育フィールドや分野別評価でも高評価を受けている医薬看連携地域参加型学習(AMEC)といった名市大ならではの強みを生かし、学生達が名市大や名古屋市域の医療に誇りと夢を持ち、他地域からも人が集まるような教育を創れたらと思っています。

教育は皆様方のご理解、ご支援なくては成り立ちません。いろいろとご相談やお願いをさせて頂くとありますがどうぞよろしくお願いいたします。



高桑 修 教授

持続性知覚性姿勢誘発めまい(PPPD)の増悪因子

持続性知覚性姿勢誘発めまい(PPPD)は、脳や前庭に器質的異常を認めない慢性機能性めまい疾患で、①立位・歩行、②動作、③視覚刺激の3つの増悪因子によりめまいが増悪することが特徴とされ、また半数以上は急性のめまいに引き続いて発症します。若年者に多く難治性のため社会的損失が大きく、発症する危険性の高い患者を見つけて予防することが必要です。今回、急性めまい患者を対象に急性めまい発症初期の臨床像と後のPPPD発症との関係を検討したところ、めまい発症初期より3つの増悪因子を有していることが、後のPPPD発症率を高めることが明らかになりました。PPPD発症予測因子の一つであると考えられ、発症予防介入を検討する予定です。

文責：耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師 蒲谷 嘉代子



アレルギーに関わる「ヒスタミン」が脳の活動を調節するしくみを解明

認知機能病態学寄附講座では、認知機能のメカニズムに関する研究を行っています。これまでに、アレルギーに関わる物質「ヒスタミン」を脳内で増やす薬によって認知機能が改善することを明らかにしてきました。そして今回、カルシウムイメージングと呼ばれる方法を用いることで、脳内のヒスタミン量を増やした時のマウスの神経細胞の活動を、リアルタイムに観察することに成功しました。そして嗅周皮質の一部の神経細胞の活動が大きく上昇することを見出しました。活動が上昇した細胞は他の細胞たちと同じタイミングで活動しやすいことがわかり、こうした同期活動が記憶・学習の促進に関連する可能性が考えられます。

今後さらに研究を進め、認知機能を改善する新たなアプローチの提唱を目指しています。

文責：認知機能病態学 教授 野村 洋



側頭葉てんかん責任遺伝子の同定と発症メカニズムの解明

側頭葉てんかんとは

てんかんは脳神経細胞の過剰な興奮により意識障害やけいれんなどを発作的に起こす病気でおおよそ100人に1人が発症します(国内で約100万人)。なかでも海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかんは、国内でおおよそ5万人が発症する頻度の高い難治てんかんです。

こんなことがわかりました

脳神経科学研究所神経発達症遺伝学分野の山川和弘教授、鈴木俊光講師らは、様々な種類のてんかん患者約2,000人の全ゲノム関連解析で同定した染色体領域¹⁾に存在し、神経細胞の発生・機能に関わる転写因子をコードするCUX2遺伝子およびその類似遺伝子の変異が海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん患者に多く見出されること、Cux2欠損マウスが側頭葉てんかん誘発剤カイニン酸への感受性の増大と海馬への興奮性シナプス入力が増大を示すことを見出しました²⁾。これらの結果は側頭葉てんかん原因遺伝子と発症メカニズムを提案するもので、診断・治療法の開発に大きく役立つものです。

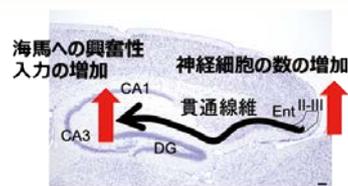
- 1) 2021年4月29日プレスリリース「日本人てんかん発症に関わる新規遺伝子領域を発見」

Suzuki et al., "Genome-wide association study of epilepsy in a Japanese population identified an associated region at chromosome 12q24." *Epilepsia* 62: 1391-1400, 2021.

- 2) 2022年5月18日プレスリリース「側頭葉てんかん責任遺伝子の同定と発症メカニズムの解明」

Suzuki et al., "CUX2 deficiency causes facilitation of excitatory synaptic transmission onto hippocampus and increased seizure susceptibility to kainite." *Sci. Rep.* 12:6505, 2022.

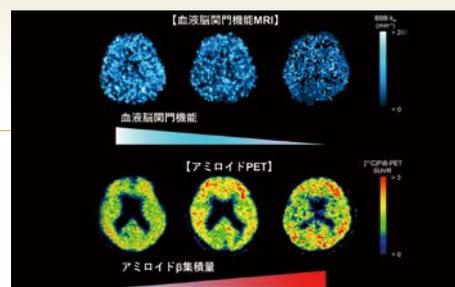
文責：神経発達症遺伝学 教授 山川 和弘



アルツハイマー病の血液脳関門機能障害を画像化することに成功

アルツハイマー病は、微小血管炎症に起因する血液脳関門機能障害によるアミロイドβ排泄障害が、アミロイドβ沈着を引き起こす可能性が考えられている。神経内科学の松川則之教授、打田佑人研究員らは、名古屋市総合リハビリテーションセンター堀本佳彦部長らと共同して、磁気共鳴画像(MRI)を用いて血液脳関門障害の可視化に成功した。その結果早期アルツハイマー病患者脳では、血液脳関門機能障害部位にアミロイドβ沈着が認められた。この撮像法はアミロイドβ沈着の早期診断に利用できる可能性が期待される。(J Neurol Neurosurg Psychiatry)

文責：神経内科学 打田 佑人



【図の説明】

上段が血液脳関門機能MRI、下段がアミロイドPET。早期アルツハイマー病患者脳内では、血液脳関門機能低下部位にアミロイドβが沈着している。

名古屋市立大学バイオバンクからのお知らせ

脳神経科学研究所2階に名古屋市立大学バイオバンクが開設されました。令和3年12月22日に血液検体等、令和4年2月1日からは手術や生検で得られた組織検体の保管を学内向けに開始しました。バイオバンクは血液、組織、細胞等の試料、その試料に附随する臨床情報を匿名化して一元管理して国内外を問わず研究者や企業に提供する施設です。一元管理することで、対象となる研究試料を大量に確保することができ、研究活動の推進につながります。各講座や診療科で専門とする診療領域、例えば脳・神経系疾患、がん、生活習慣病や先天性疾患などの特色のある疾患をバンキングの対象としています。病院の電子カルテから説明・同意文書のダウンロードが可能です。患者様や健常者ボランティアの皆様からご提供いただく検体は、将来の新しい診断法の確立やバイオマーカーの同定、そして新しい治療薬の開発研究など医学研究の更なる発展ために活用させていただきます。ぜひバイオバンクをご活用ください。



文責：飯田 真介(バイオバンク長)

令和4年度 保護者説明会・施設見学会を開催しました

4月5日の入学式終了後、桜山キャンパスにて保護者説明会と施設見学会を開催しました。保護者説明会では、本学のカリキュラムおよび学生指導について紹介し、保護者の皆様に本学の教育や名古屋市立大学病院について知っていただく機会となりました。その後の施設見学会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、病院見学と学生有志の引率参加は中止となりましたが、事前申込をした89名の保護者の方々にご参加いただきました。本学の医学教育の概要について説明した後、3グループに分かれて臨床シミュレーションセンター、周産期・新生児シミュレーションセンター、先端医療技術イノベーションセンターをはじめ5ヶ所を見学していただきました。また、保護者の方々に手技練習用の医療シミュレーター(上半身)を実際に触って体感していただけるよう工夫もいたしました。施設見学会終了後に参加者アンケートを実施し、好評を博しました。

文責：薬理学 教授 大矢 進 / 医療人育成課医学教育係 袴田 彩水

医師国家試験の結果について

第116回医師国家試験が令和4年2月5日(土)、6日(日)に実施されました。本学は新卒者99名のうち98名が合格しました(合格率99.0%)。全国81校の医学部・医科大学中で6位であり、昨年に引き続き愛知県の4大学では最も高い合格率となりました。医師国家試験は団体戦だと言われております。コロナ禍においても学生同士が勉強面、精神面で支え合い、互いに高め合った成果だと思えます。

令和4年度 医師国家試験結果

第116回 本学統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考) 第115回
本学(新卒)	99	98	99.0%	99.0%
本学(既卒)	3	0	0.0%	33.3%
本学(全体)	102	98	96.1%	97.1%

第116回 全国統計	受験者数	合格者数	合格率	(参考) 第115回
全国(新卒)	9,232	8,774	95.0%	94.4%
全国(全体)	10,061	9,222	91.7%	91.4%

文責：医療人育成課医学教育係 袴田

令和4年度初期・専門研修プログラム説明会を開催しました

5/23(月)に初期研修プログラム説明会を、6/13(月)に初期・専門研修プログラム説明会をwebにて開催し、多くの名市大生・他大学の学生ならびに初期研修医の皆さんにご参加いただきました。5/23は総合研修センター教員・研修医が中心となり当院の4つのプログラムの特徴を説明、6/13は各診療科の先生方・シニアレジデントや卒後10年前後の先生方が説明者となり、学生・研修医からの質問にその場で答えていただく臨場感あふれるものとなりました。また、今回は3年目以降のキャリアプランについても広く説明を行い、当院での専門研修ならびに大学院進学・研究の魅力を存分にお伝えすることができたと感じております。

今後も名市大・大学病院の将来を担う若者の獲得に尽力したいと思います。

引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます。

文責：総合研修センター



5/23(月):
楠本副センター長によるプログラムの説明



5/23(月):
参加者へ想い語る林センター長



6/13(月):
間瀬病院長より参加者へメッセージ



6/13(月):
総合内科により説明・質問回答

名古屋市立大学病院(名市大病院)臨床研究ワークショップについて

研究者が「人を対象とした研究(臨床研究)」を実施しようとする場合、開始する前に科学的・倫理的である実施計画書を作成し、倫理審査委員会等で実施に係る承認を得る必要があります。臨床研究を活性化するために、名市大病院では、研究者の臨床研究アイデアを実施計画書として立ち上げるまでの過程を学べる機会として「臨床研究ワークショップ」を開催しています。名市大病院以外の医療機関の関係者の参加も可能となっています。昨年度は令和3年11月18日、令和4年2月24日に開催され、名市大医学部附属東部・西部医療センターからもご参加頂きました。臨床研究に興味のある研究者の方にとって研究計画の立案を基礎から学ぶ良い機会となっています。

文責：病院臨床研究戦略部

THEインパクトランキング2022のSDG3(健康と福祉部門)で全国1位!



2022年4月にイギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が発表したTHEインパクトランキング2022で、本学は総合ランキングで世界301-400位、国内同率15位にランクインしました。

このランキングは、国連が掲げる「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (SDGs)」に対して、大学がいかに取り組み、社会に影響を与えているかを可視化したランキングです。

SDG別のランキングでは、本学はSDG3「すべての人に健康と福祉を」において全国1位(世界21位)、SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」において全国同率1位(世界401-600位)となるなど、高い評価を受けました。

今後も本学では、世界をリードする大学を目指し、国際社会共通の課題に積極的に取り組んでまいります。

文責：企画推進課

2022年全日本学生テニス選手権大会に出場します

この度、8月に開催される2022年全日本学生テニス選手権大会の女子シングルスに出場することになりました。今年は東海地区から15人出場します。3度目の出場となりますが、2、3年生の時に出場した際には、関東・関西の選手のレベルの高さ、自分との実力の差を実感し、全国大会の厳しさを目の当たりにしました。日々の病院実習と週4~6回程度の練習を両立していて心身がすり減ることもあります。しかし、20年間続けていてもテニスは本当に難しく、その面白さは尽きることがありません。そんなテニスが好きだからこそ、上手いかわなくて辛い時でも続けることができたと思っています。マッチングなどで忙しい期間ではありますが、6年生という学生最後の年にインカレに出場できるという貴重な経験ができることに感謝しつつ、より良い結果を残せるよう出来る限りの準備をして試合に臨みたいと思っています。

医学部6年 脇田 千佳子

